

思いがけず、コロナウィルスは終息の様子を見せず、未だ、予断を許さない状況になっていますが、みなさまは、どのようにお過ごしでしょうか？

先月、ロンドンに再び留学したお話をしましたが、私がロンドンにいた時期は、イギリスから発症した USB（いわゆる、狂牛病）が世界を怖がらせた時期に当たります。病気の羊の骨を飼料としていた牛が罹るこの病気がヒトにも感染するというものでした。今回のコロナウィルスとは、少々、異なりますが、やはり、世界的な大問題となり、特に牛肉を多く食べる欧米で、感染が拡大しました。この問題は、ウィルスとは違い、狂牛病に罹った牛の内臓などを食べると、ヒトにも同様の症状が現れるらしい、ということで、この病気にかかると2〜3週間で死亡するというものでした。この時は、とにかく牛肉を食べないことを徹底しましたが、もともと日本人は、牛肉を欧米人ほどは食べないので、日本では、あまり被害がなかったと記憶しています。その後、日本の牛にも発症し、牛肉の輸入制限が設けられ、世界中で牛の検査が行われ、今では、検査なども確立し、当時の心配はなくなっています。ちなみに、私は、1985年から1990年の間に6か月を超えてロンドン在住だったため、いまだに、献血ができません。

ロンドンは、過去に植民地がたくさん存在していたため、あらゆる民族、あらゆる宗教の人々が暮らしています。特に、ユダヤ教、イスラム教の方々は、豚肉を食べることができないという戒律があります。彼らの宗教上の食事の制限は、かなり厳格で、狂牛病が発症した時、その宗教の方々に影響が出たことを覚えています。ユダヤ教の方々は、独特の服装で、すぐにユダヤ人とわかります。日本にいとこのようなさまざまな宗教を持ち、その戒律に従って暮らしている方には、あまり会うこともありませんし、話す機会もほとんどありませんが、ロンドンでは、本当にさまざまな人種、宗教、LGBTの方と接点がありました。特に伝染病などの特殊な事情がある時に、日本との違いが見えたり、日本の良さがわかったりすることを体験しました。

今回の新型コロナウイルスの世界的拡大となった時、私は、当時のロンドンでの狂牛病のことをまざまざと思い出しました。ヨーロッパは、挨拶として目を見て握手をする、頬にキスをするなど、日本に比べるとかなり日常的な習慣として「濃厚接触」が行われます。そこにも文化の違いを見ることができます。日本では、このような感染症や大災害でも、国民性として冷静なところがあり、パニックにならず、落ち着いて時を待つという特徴が見られます。今回も、1200万人の人口を抱える東京においても、土日にほとんど人出がなく、外出を自粛した人がほとんどでした。コロナウィルスは、今がピークかもしれませんが、日本人の礼儀正しさや冷静な国民性によって、徐々に終息に向かうと私は信じています。みんなで、この時期をご一緒に乗り越えましょう。